

1.バンブーギターとは…

八女市立花町に繁茂する大口徑孟宗竹の硬質部分に弦楽器の素材としての可能性を見出した*中山修が、18年の歳月をかけて開発した遠達性のある演奏会用の竹製のクラシックギター、特許第4414483号。

主な特徴は①弾性波速度の速い竹の硬質部分に対応した接着剤の使用。②乾燥収縮に依る竹特有の湾曲を直交異方性の合板を作成する事で解決。③竹の弾性係数大なるが故に音の遠達性大なるに加え音質の煌びやかなること。④ナルシソイエペス氏が*中山修に残した遺言『ネックから音の出るギターを造れ！』の実現がミッションのゴール。



2.*中山修とは…

話は半世紀ほど前へ遡る…小原安正氏の指導を得て早稲田大学2年生時、19歳でスペインに渡り、ナルシソ・イエペス氏に奏法を、ラミレス三世にクラシックギター製作をそれぞれ9年間学び、帰国後ギタリスト&製作家として活躍した。芸術家としての全盛期、30代後半に交通事故で両手首を骨折、ギターに対する燃える思いを泣きながら封印、20年が経過する。そして断ちがたい夢を捨て切れず、60歳を目前に不死鳥のごとく蘇り、バンブーギターの開発に全力投球。

2009年8月に筆者が特許申請し、2009年11月、異例のスピードで特許化された。バンブーギター情報は海を渡り、この5年間、毎年韓国政府に招待され、異国のギター展示会に出展し、外国人ギタリストの評価を得ている。



3.『バンブーギターフェスタ 2013 in 八女』の開催

中山修のバンブーギター開発13年間の集大成として、全国のクラシックギター製作家を迎え九州で初めてとなるクラシックギター展示会を2013年9月に開催した。八女市、八女市教育委員会の後援を得て開催された展示会は、東京、静岡、滋賀、大阪、兵庫などから著名な製作家が参加。バンブーギター製作講座の生徒の作品を加えて約20本のクラシックギターが展示され、バンブーギターの楽器としての性能を全国に広く知らしめた。

(INet掲載、下記アドレス参照)

<https://kfs.kddi.ne.jp/public/KJVQQAkjSsjA23EBf1NOoqsjJeQ527fCOLAWaYrQOy3X>



4.村治佳織さんからの製作依頼も…

2012年には、手形を取って注文を受けたバンブーギターを村治佳織さんへ納品している。写真は2010年“直方ユメニティー”のコンサートで、中山修のバンブーギターでアンコールに“アルハンブラの想いで”を演奏したもの。(左:中山修、中央:村治佳織さん) H27.6.23 文責:前田剛志

